

平成 23 年度 学校自己評価システムシート (県立 白岡高等 学校)

目指す学校像	自主と奉仕の精神に満ち、社会に貢献する人間を育てる、地域から信頼される学校
--------	---------------------------------------

重点目標	1 確かな学力を育成するために、授業改善をはじめとする学力向上に関する取組を推進する。 2 学校・家庭・地域の絆を深め、開かれた学校づくりを推進する。 3 生徒一人ひとりの、自立する力を育む進路指導を推進する。 4 豊かな心と健やかな体を有する、明るく活力ある生徒を育成する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 3 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業態度は概ね良好で、チャイム着席等のマナーも守られている。情報コミュニケーションコースを中心に、検定・資格取得に意欲的な生徒も多い。 学習に対する意欲や興味、関心をさらに高めて基礎学力の充実と定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲、興味、関心を引き出すような授業の改善に取り組む。 生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究を行うための、公開授業週間を設定する。 「学力向上プロジェクトチーム」と連携し、進学補習を強化する。課題の取り組みについて教科と学年で連携をとり指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおける「わかりやすい授業を行い、熱心に指導している」70%以上を目指す。 長期休業中の課題提出率100%を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおける「わかりやすい授業を行い、熱心に指導している」では1・2年生徒60%、3年生徒は68%、1・2年保護者は67%、3年保護者では73%であった。これは昨年度の1・2年生徒59%、3年生56%を上回る。 長期休業中の課題提出率100%を維持している。 	B A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き授業改善のための研修の充実を図る。生徒の学力実態を考慮したプリント等の補助教材等の研究をしていく。 適切な課題付与による家庭学習の習慣化を図るとともに、学力レベルに応じた指導の充実を図る。
2	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と協力して実施する登校指導や、保護者・地域住民と協力して実施する清掃活動等が定着してきた。 部活動の活躍、奉仕活動の励行、国際交流事業の取り組みや入試選抜基準等、学校から多様に発信することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や教育活動に関する情報を発信する時期や手段を工夫する。 本校教育活動の特色、選抜の基本方針及び選抜基準を、中学校教職員及び保護者、生徒へ周知徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> より魅力的なホームページにするために、内容を刷新し、更新回数を月1回以上に増やす。 学校説明会の時期や運営を見直し、中学校訪問の内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおける情報提供に関する保護者の満足度65%を目指す。 入試における志願倍率について、普通科、コース共に1.1倍を上回ることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新回数を月1回以上にしたが、満足度は昨年度と同じ62%であった。 入試の一本化に伴い、2月にも学校説明会を設定した。12月の中学3年生の進路希望調査において、普通科、情報コミュニケーションコース共に10月調査の本校希望者数を上回った。 	B B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も積極的に情報発信すると共に、HPの内容や利用方法を紹介するなど情報発信方法も工夫する。 アンケートに示される参加者のニーズに即応した学校説明会を開催する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した指導計画を立て、進路オリエンテーション等を通じて効果的な指導を実現している。 生徒には、各自が希望している進路先の現状を十分に理解させ、自己の適性も考慮した上でよりよい進路選択ができるよう指導することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分の能力や個性に応じた的確な進路選択ができるよう指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路オリエンテーション及び就職指導の内容を充実させる。 それぞれの生徒の進路希望を定期的にチェックし、適切な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> フリーター0名を目指す。 就職内定率100%を目指す。 学校評価アンケートにおける3学年生徒及び保護者の満足度90%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職を取り巻く社会情勢は非常に厳しいが、中でもフリーター0名と就職内定率100%はほぼ達成し、個に応じた進路指導を実現できた。 なお、学校評価アンケートに3年生の進路結果に対する満足度は、生徒が76%、保護者が84%であった。(昨年度は生徒79%、保護者86%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自分の能力・適性および家庭状況を考慮しながら、将来の職業を意識した進路選択ができるような指導を今後も継続していくことが肝要である。 就職指導においては、より高いハードルを設定し指導していく必要がある。
4	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が守られ、元気のよい挨拶ができる生徒が多い。 部活動、学校行事が活発に行われている。 様々な活動により、一層積極的に取り組む生徒を育成するとともに、リーダーシップを育成することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の共通理解に基づく、一貫した指導の実践をとおして、生徒が充実した学校生活を送ることができ環境作りに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部会及び生徒指導に関する教職員の研修会を充実させる。 部活動の活動状況の把握等により、部活動の発展拡充を図るとともに、生徒の意欲及び参加率の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導人数10名以内を目指す。 県大会以上の大会に出場する部活動10部以上、県入賞3部以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導件数は14名であったが、生徒指導部会の充実や職員研修の実施、生徒指導の手引き作成により、共通理解に基づく生徒指導を実践し、生徒が安全に安心して学校生活を送れる環境を維持できた 部活動では、県大会以上の大会に12部が出場して4部が入賞し、陸上競技部はのべ4名が関東大会に出場するなど、部活動は学校生活をより充実させる場となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導の手引きを活用し、共通理解をより深め、組織的な指導をより充実させる。また、保護者と一体となった指導を進める。 部活動の充実をさらに図るために、2年生からの部活離れを無くす。また、魅力的かつきめ細やかな部活運営を通じて、より良い人間形成につとめる。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成24年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業は授業の速さが、それぞれの生徒のペースにあっている。 高い評価を得ているアンケート項目ではなく、低い項目を努力すれば効果は大きいのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ホームページの閲覧は入学前の保護者の方がよく見るが、入学後はあまり見ないのではないか。これからは情報のメール発信を導入したらどうか。 志願倍率1.1倍は良い目標設定である。 	
<ul style="list-style-type: none"> この時代に、フリーター0を目指して就職内定率100%を達成したのはすばらしい。 進学実績も向上している。評価Aでもよいのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> 白高生はおとなしいという印象であったが最近「わんぱく商店街」等の行事で放送部がてきぱきと仕事をこなしている姿を見るときちんと指導されていると思う。 企業が欲しいのは、成功体験・達成感を持っている人材。部活動は達成感を得られる場である。最終的には生徒が白岡高校で達成感を持ってくれたかが大切である。 	